

2か月間無料!



試し読み キャンペーン

実施中

毎週おとどけ



▲新聞QR

農業共済新聞を読めば分かるシリーズ

- 1 農業・営農の今が分かる
- 2 農政の動きが分かる
- 3 農業共済・収入保険の仕組みが分かる
- 4 所得確保や経営改善の手がかりが分かる
- 5 暮らしを豊かにするヒントが分かる



人気コーナー

農家や研究者
のコラム
「ズバリ直言」



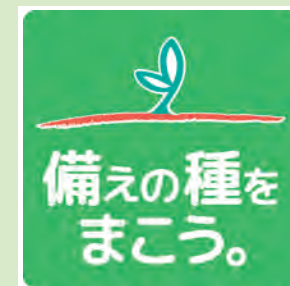
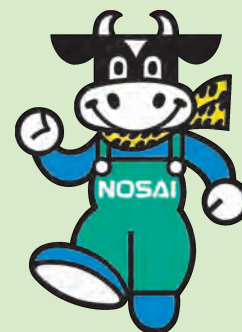
農業女子が
思いを寄せる
「晴れ間」



役立つ
営農技術情報



充実の地方版



広報 NOSAI 東京

NO. 36 東京都農業共済組合 広報誌

CONTENTS

- ・新年のご挨拶
- ・新年の縁起物
- ・東京都の農業者紹介
- ・加入者の声
- ・東京都知事への予算要請



安心のネットワーク

NOSAI 東京

広報 No.36 令和 8 年 1 月発行

※本誌の無断転載を禁じます

発行：NOSAI 東京（東京都農業共済組合）

〒184-0004 東京都小金井市本町6-9-35 TEL.042-381-7111

●ホームページ <https://www.nosai-tokyo.jp/>

●メールアドレス info@nosai-tokyo.jp



東京都農業共済組合
組合長理事
さわい やすと
澤井 保人

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。
組合員の皆様におかれましては、
健やかな新春をお迎えのことと心より
お慶びを申し上げます。

また、日頃より、農業保険事業に
対しご理解とご協力を賜り、厚くお
礼を申し上げます。本年も何卒よろ
しくお願いいたします。

さて、昨年は20年ぶりとなる万博
の開催や、東京世界陸上における日
本選手団の活躍、イチロー氏の日本
人初のアメリカ野球殿堂入りなど、
明るい話題も多くありました。

一方、6月から8月の平均気温は、
過去最高を記録した一昨年の記録を
更新し、3年連続の記録的猛暑とな
りました。また、線状降水帯が全国
各地で発生し、記録的な豪雨により
大きな被害が多発しました。都内
においては、10月に発生した台風22・
23号により八丈町で甚大な被害が発
生しました。未だ完全な復旧には至
っていません。被災された皆様、影
響を受けられた皆様には、心からお
見舞いを申し上げますとともに1日
も早い復旧をお祈りいたします。

国は、令和6年に「食料・農業・
農村基本法」を改正し、この基本法
を着実に進めていくために令和7年
「食料・農業・農村基本計画」を策定
し、様々な施策に着手しています。
この基本計画においても農業保険は、
農業災害対策の基幹的役割を果たす
機能として位置づけられています。

本組合が期待されている役割を果
たすために実施すべきことは、自
然災害や農産物の価格低下等の様々
なりリスクから農業経営を守るセーフ
ティーネットとして、その機能をす
べての農業者に届けることです。

本年も引き続き農業保険事業を通
じ、組合員の経営安定と発展に寄与
し、皆様が安心して農業に取り組め
るよう、役職員一丸となって取り組
んで参る所存です。

結びとなりますが、皆様のご健勝、
ご発展と本年の豊作をご祈念申し上
げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年の縁起物

1年の無病息災を願う春の七草の寄せ植え「七草かご」と新年を迎えるための
正月飾り「宝船寄せ植え」を生産する江戸川区の農業者お二方を取材しました。



しゅだい かずしげ
江戸川区 首代 一重さん「植重農園」
(朝顔、七草)

「七草かご」は、1年の無病息災を願う春の
七草を観賞用として鉢に寄せ植えた縁起物
です。「七草かご」を生産するのは、植重農園
の首代一重さんです。首代さんはセリ、ナズナ、
ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシ
ロのうち、ほとんどを自家栽培しています。種
まきは9月から始まります。栽培方法がそれ
ぞれ異なるため、出荷時に生育を揃える手間
がかかります。今年は特に猛暑の影響で水や
りには気を使ったそうです。スズナ(カブ)とス
ズシロ(ダイコン)に「金町小カブ」、「亀戸大
根」と江戸東京野菜を使っていることがこだ
わりです。七草を鉢に寄せ植え、雪に見立て
た寒水石を敷き、鉢を竹籠に入れて完成で
す。首代さんは「冬の寒さに負けない野草の
生命力を感じて欲しい」と話していました。



いしい じゅんいち
江戸川区 石井 淳一さん「中乃園」
(花のポット苗等)

「華やかな正月飾りを楽しんで欲しい」と話
すのは「宝船寄せ植え」を生産する中乃園の
石井淳一さんです。普段は花のポット苗と朝
顔を生産しています。「宝船寄せ植え」生産は、
平成12年に子供が生まれたことで7人家族
となり、七福神にあやかって七種の寄せ植え
を作ろうと考えたことがきっかけだそうです。

手ごろな価格で購入できる華やかな寄せ
植えにしようと改良を重ねた結果、「今では7
種類以上の寄せ植えになっているね」と石井
さんは教えてくれました。
葉牡丹、白妙菊、寒菊、南天、松、門松、タマリ
ユウ、ヤブコウジを宝船に見立てて寄せ植え、
新年を彩る絵柄のお手製の帆をかければ完
成です。手間がかかりますが、夫婦で真心を
込めて生産しています。

東京都の農業者紹介

『次の10年を見据えて』

立川市

おかべ あきな

岡部 晃奈さん「岡部園」グランドカバー、オージープランツ等



ヤブランを手入れする岡部さん

立川市「岡部園」の岡部晃奈さんは、公園や住宅の植栽に用いられるヤブランやタマリユウなどのグランドカバー約300品種をビニールハウス9棟と露地の合計70aで栽培しています。2014年に就農し、今年で11年目となります。就農のきっかけは、家族で農地をどうするか話し合ったことだといいます。当時、岡部さんはアパレル関連の接客業に就いていて、農業や植物への関心は低かったそうです。しかし、仕事はやってみないと面白さはわからないと考え、就農を決めました。最初の仕事は生産するグランドカバーの名前を覚えることでした。

就農して1年後、共に営農していた父親が突然亡くなってしまいます。頼りにしていた存在を失い、日々の作業は手探りでした。生産品目を変えることも考えましたが、父親に教わったグランドカバー生産を続けることに決めました。しかし、「前職では、接客した結果が売上としてすぐに表れましたが、グランドカバー生産は播種から出荷まで数年かかります。そのギャップにつまらなさを感じてしまうこともありました。」と振り返る岡部さん。

転機となったのは、前職の縁で参加したマルシェでした。購入者の声を直接聞き、自分の育てた植物が喜ばれていると実感できたことで、農業に気持ちが入るようになりました。今では「育てる過程がとても好きです。変わらないようで日々変わる植物を見るのは楽しい。」と笑顔で話します。

今年の抱負は、次の10年を見据えて経営を考えていくことだと話す岡部さん。経営の規模は維持しながら、気候や環境に適した高品質なグランドカバー生産を目指しています。新たに始めたユーカリ等のオージープランツ（オーストラリア原産の植物）生産で切り葉や鉢物の販売も計画中です。

(農業共済新聞 令和8年1月1週号 連携記事)



ヤブラン



新たに生産しているユーカリ(オージープランツ)

『羽村市をもっと元気に』

羽村市

しみず りょういち

清水 亮一さん（水稻・花き等）



収穫した稲を持つ清水さん

「特産品を作り、羽村市を盛り上げていきたいです」と話すのは、自身の栽培するコシヒカリを使って日本酒造りに挑戦する清水亮一さんです。

清水さんは22年前に父親から農業を受け継ぎ、水稻の他に花きと野菜の生産も手がけています。清水さんがコシヒカリで日本酒造りに挑戦しようとしたきっかけは、コロナ禍の需要減で酒米が返品されて主食用米としても使えず、行き先を失っていることを知ったからです。清水さんは、酒米ではなくコシヒカリを日本酒造りに使えば、需要が減っても主食用米として販売できると考え、酒蔵へ相談して日本酒造りが始まりました。

コシヒカリを使用した日本酒造りで課題となったのは日本酒のうまみの素となるアミノ酸の含有量を酒米なみに増やすことでした。清水さんが目を付けたのは酒粕です。産業廃棄物として処分する予定の酒粕を譲り受け、水田に肥料として撒くことを考えました。酒粕肥料を使って造った日本酒は、以前より風味が良くなっていたことから、水田に撒く酒粕の量を増やし、70㍓の水田に3㍓を撒くことにしました。結果、ほんのり甘口ですっきりとした飲み口が特徴の日本酒『はむら』が完成しました。こだわりは、羽村産のコシヒカリと地下水、東京都産の麴と酵母で製造している『オール東京』の日本酒であることです。

清水さんは「羽村市は東京の中では小さな街ですが、7㍓の水田が残っていて自然に触れ合える機会がある素晴らしい街です。日本酒『はむら』を特産品としてアピールして羽村のお米の注目度を上げ、水田を次の世代に残していきたいです」と今後の展望を話していました。



稲架掛けの様子



日本酒『はむら』石川酒造株式会社



農業経営収入保険に加入された 方々の声をご紹介します！

○安心して農業をするために

練馬区 ^{いがらし}五十嵐 ^{とおる}透さん 農業体験農園（イガさんの畑）



私たち農家は、場合によっては1か月病気や怪我で仕事ができただけで、半年から1年の売り上げがなくなってしまうことがあります。そのような事態が起こることを考える上で、収入保険の必要性を感じ、加入することにしました。

今後は農業体験農園を続けていく中で、農業を理解してくれる人や応援してくれる人をたくさん増やしていきたいです。

○安定した経営を目指して

西東京市 ^{いわさき}岩崎 ^{りょうすけ}亮介さん（レイモンドファーム）野菜（とうもろこし・枝豆等）



安定した経営を目指していますが、不測の事態に備えられるものがほしいと考えていた時に収入保険制度を知り、健全な経営をするためのセーフティネットとして加入を決めました。収入保険は、難しい手続きがなく保険料が安いので、負担感が少ないのに手厚い補償を受けられるのが魅力です。今後は、良い経営をしてレイモンドファームに関わる方の生活が今よりハッピーになってくれたらいいなと思っています。

○リスク分散と収入保険で二ーズ作物にも挑戦

八王子市 ^{かつざわ}勝澤 ^{みのる}実さん（勝澤農園）原木しいたけ周年栽培、梅、野菜（多品目）



後継者に農業を安心して続けてもらえるように収入保険に加入しました。

魅力的なところは、けがや病気で減収した時も補償してくれるところです。

同じ地域の仲間がケガをしてしまい、収入保険に加入していてよかったという話を聞きました。

今後は、原木しいたけの周年栽培を続けながら、二ーズに合った作物にチャレンジしていきたいです。

東京都知事への予算要請活動



画像左から石井理事、吉村専務理事、小野理事、要望書を渡す澤井組合長、小池都知事、金田理事、嶋崎副組合長

令和7年11月20日、本組合は小池百合子東京都知事に令和8年度の東京都予算への要請活動を実施しました。

この要請活動は、都内農業者の皆様にも農業共済事業並びに収入保険事業をご活用いただくために予算措置の要請を行うものです。

澤井組合長からは、昨年10月に八丈町を通過した台風22号23号がもたらした甚大な被害に対し、本組合が共済金の早期支払いに向けて作業を進めている旨を説明し、一人でも多くの農業者が農業保険のセーフティネットで守られるために、引き続き東京都の支援が必要である旨要望しました。また、八丈町の農業者である金田理事から、園芸施設

共済と収入保険に加入していたことで、台風被害からある程度再建の目途が立っていて、農業保険が安心材料となっていると説明しました。

小池都知事からは、「想定を超える自然災害により、農業被害が増える中で農業経営の安定を図っていくために公的な保険制度の維持は重要だと考えています。農業保険制度の実施主体である東京都農業共済組合の皆様への支援は着実に進めて参ります。」とご回答をいただきました。

（予算要請の様子は右記QRコードよりご視聴いただけます）
（1:19:00以降10分程度）



園芸施設における降雪・積雪対策について

園芸施設をお持ちの組合員の皆様に、大雪に備えるための予防減災対策についてまとめましたので、ご自身の安全を確保したうえでご協力をお願い申し上げます。

○降雪前の準備・点検

- ・ブレースや筋かいの留め金具に緩みがないか確認してください。
- ・被覆資材の破れや隙間の点検、補修を行い、保温性向上に努めてください。
- ・基礎部が腐食している場合は、パイプの交換や補強資材により強化してください。
- ・谷樋や排水路、周辺の残雪やゴミは取り除いてください。
- ・被覆資材の表面に雪の滑落を妨げるような突出物がないか確認してください。
- ・雪の滑落を妨げる防風ネットや遮光資材の展張がないか確認してください。（出典：農林水産省ホームページ）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/yobougensai_house.html#boufuusetsu